

日本食道学会より

『食道裂孔ヘルニア・胃食道逆流症の外科治療の全国実態調査』について

➤ 研究（調査）の目的と概略

食道裂孔ヘルニアや胃食道逆流症は最も多い食道良性疾患です。食事がつかえる、胸やけがする、夜間に咳き込むなどの症状は、多くの場合には薬物治療で症状が消失したり軽くなりますが、薬物治療が効かない場合もあります。その際には外科治療が行われます。これらの疾患に対する全国規模の調査は少ないため、日本人における外科治療の有効性や安全性の実態が明らかになっておりません。食道裂孔ヘルニアや胃食道逆流症に対する外科治療に関する全国調査を実施して、日本人に適した手術適応や手術方法を検討することを目的とします。

➤ 研究（調査）の方法

日本食道学会の食道科認定医所属施設に食道裂孔ヘルニアと胃食道逆流症の手術症例に関して調査用紙を用いて調査を行います。集計したデータをもとに、併存疾患、症状、治療歴、手術前の検査、手術適応、手術方法、手術成績などについて解析して、食道裂孔ヘルニアと胃食道逆流症に対する適切な手術適応や手術方法を検討します。

➤ 研究（調査）の参加施設

日本食道学会の食道科認定医所属施設

➤ 調査期間

調査期間（2001年1月1日～2015年12月31日） 研究期間（2019年2月7日～2019年12月31日）

➤ 調査の対象となる患者さんへ

この研究は、2001年1月1日から2015年12月31日までに食道裂孔ヘルニアまたは胃食道逆流症で治療を受けられた患者さんを対象に、カルテから得られた所見や診療経過のデータについてアンケートを行い解析するものです。アンケート結果は、個人が特定できないよう匿名化して管理し、個人情報保護をします。

➤ この調査への協力は任意です。

この調査に協力するかどうかは、患者さんの自由な意志で決まります。調査への協力に同意されなくても、患者さんに不利になることは一切ありません。また、調査に協力することを同意した後でも、いつでも撤回することができますし、そのために不利益を被ることもありません。データの使用をお断りになる場合には直ちに本研究の対象から除外しますので、ご遠慮なくお申し出ください。

➤ お問い合わせ先

この研究は、食道学会研究推進委員会が研究事務局を担当しています。

研究責任者：小澤壯治（東海大学消化器外科）

本学問い合わせ先 研究責任者 國崎 主税（市民総合医療センター 消化器病センター 外科）

お問い合わせ先

特定非営利活動法人日本食道学会 事務局

〒130-0012 東京都墨田区太平2-3-13 廣瀬ビルディング4階

TEL/FAX: 03-6456-1339

E-mail: office@esophagus.jp